

08年第一回定例会

くらし 福祉 環境 充実に全力

日本共産党 豊島区議団ニュース

第五号 二〇〇八年四月一三日発行

発行所
日本共産党豊島区議団
東京都豊島区東池袋1-18-1
豊島区役所内
TEL (3981) 1429 FAX (3590) 4650

4月に開設したホームページ
もご覧ください。
<http://www.jcp-toshima.jp>

第1回定例区議会が2月15日から36日間の日程で開催されました。日本共産党区議団を代表して、かきうち、河野の両区議が一般質問にたち、自公政権のすすめる増税や医療制度の改悪の撤回、区民の暮らしや福祉、介護、環境政策など充実を求めました。

実施するための条例を提案。予算委員会では、かきうち、渡辺、森の3議員が審査にあたり、区民のくらしや福祉を守る立場で奮闘しました。また、区側から提出された条例改正など議案45件、請願・陳情12件の委員会審査でも一貫して審議をリード。妊婦健診の助成については当初5回としていた区の姿勢をかえ、14回に拡充するとの表明を引き出しました。

二〇〇八年度予算

「新ルネサンス構想」など大型開発はやめ、福祉、くらし、教育優先の予算に切り替えを

日本共産党が主張

08年度予算について日本共産党区議団は、①財政運営の方向が区民のためになっているか、②削減された区民サービスの復活を含め、切実な区民要求にこたえているか、③不要不急

の大型開発で区民生活を脅かしていないか、の観点で審査にあたりました。①区はこの間、財政難を口実に職員削減、民営化、指定管理者導入、使用料引き上げなど、

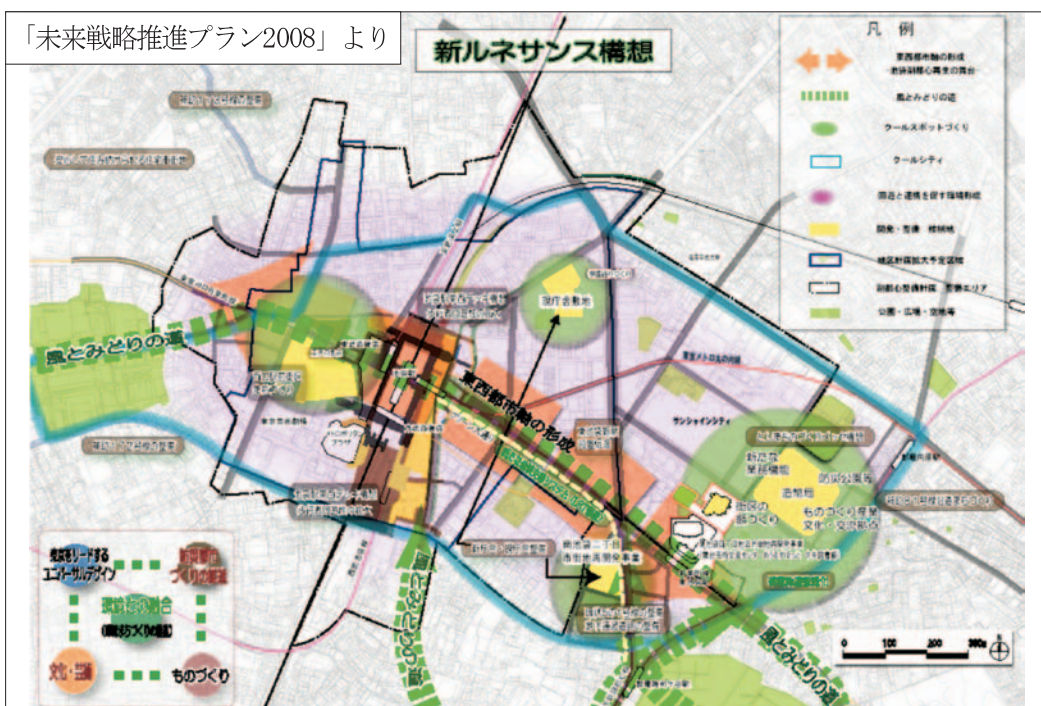
区民犠牲の行革を次々と実施。財政が「好転」したら、今度は基金を積み増し、07年度末で財調基金は74億円に。区民犠牲の行革はそのまま実施し、借金の一括返済等を行うなど異

常な財政運営を行ってきました。

さらに区長は予算委員会で、13年間で返済予定の特養や公園の用地取得費の借金125億円を3年以内に返済したいと発言。無理な返済は、財政を圧迫し、行政水準を下げ、ますます区民需要を切り捨てることになります。

②182項目の新規・拡充事業のうち福祉関連は23事業のみ。一人暮らし高齢者対策の拡充額は2事業で13万円。全ての認可保育園待機児がおり深刻なのに保育園建設計画は無し。特養ホームの待機者1千33人に。教育費では私費負担が増大、しかし就学旅行補助等、削減した施策の復活はゼロ。住宅施策の拡充もなし。これでは切実な区民需要に応えたり

算ではありません。③国の都市再生にのつた「新ルネサンス構想」は、新庁舎建設、東池袋4丁目再開発、LRT、南池袋2丁目街区再編づくり、東西デッキ等を進めるもので、住民不在。多額の税金を必要とする大型開発はやめるべきです。以上の理由で予算に反対しました。



区民生活は大変なのに

(08予算の一部)

都市再生には

一人暮らし高齢者対策の拡充
2事業13万円
生活保護の入浴券の拡充 27万円
特養ホーム待機者1033名(07年11月)
認可保育園待機児 245名(08年2月)

東池袋四丁目再開発 8億6千万円
新庁舎・現庁舎整備・
南池袋二丁目再開発 8千200万円
LRT(新型路面電車)調査費 1千万円
池袋駅及び周辺整備調査 1千950万円



区民生活の実態の認識について

かきうち議員は、ま

ず、首相が消費税増税の早期実施を表明したが、区長に反対せよと質問。また生活に苦しむ区民が増えている認識を質し、①住民税の軽減実施を②障害者控除対象者の認定要件の緩和を要求しました。区長は、増税反対は

くらし、福祉第一の

区政に転換を

かきうち信行議員が一般質問

表明しない。区独自の軽減は実施しないと後ろ向きの答弁でした。

後期高齢者医療制度は撤回させよ

次に、後期高齢者医療制度について①中止と見直しを国に求めるべき②高すぎる保険料の区独自の軽減策を実施すべきと質しました。区長はこれに①求め

ることはしない②独自の軽減策導入はしないと答弁しました。

08年度予算について

第3に、予算に関し、直ちに実施すべき課題について7項目にわたって質問しました。

①区民サービス低下となる職員削減計画は改めるべき②低所得者への支援策について、灯油代の補助、夏期や冬期の見舞金の復活を③生活保護者の入浴券を60枚に戻せ④介護保険料の激変緩和措置を制度化せよ⑤特養ホームは、需要に見合った増設を⑥介護保険対象外の居宅介護サービスを実施せよ⑦介護施設入所に対する相談窓口の強化と体制を拡充すべき、と要求しました。区長は、削った福祉の復活には、相変わらず否定の態度でしたが、特養ホームについては区有地の活用も検討すると表明。また親身になって施設入所や介護等の相談を受けると答弁しました。

開発優先の街づくりは改めよ

第4に「新ルネサンス構想」といって新庁舎建設、東西デッキ、路面電車（LRT）な

ど池袋中心の大型開発を区民不在で進めようとしていることを批判。新庁舎建設のすすめ方はまさに議会軽視、区民無視と指摘。そして莫大な経費が想定される大型開発計画は撤回すべきと迫りました。

マンション、ビルの規制について①住環境を守る政策と独自の規制策を②紛争予防条例は、建主の責務・説明責任、近隣住民との合意形成を義務付ける改正をと質しました。

区長は、構想は都市再生をリードするプロジェクトで、その連携は、民間活力を引き出し、相乗効果を生み出すものと述べ、あくまで計画を進めていくことを明らかにしました。また紛争予防条例については建築主の説明会参加を定める改正を検討すると答弁しました。

環境計画、障害計画を充実せよ

河野たえ子議員が一般質問



「環境基本計画」について

区は08年度を環境元年と位置付け「環境基本条例」を制定したが、「計画」に2年もの空白を作ったり、緑比率を増やす努力も不十分。CO2削減事業の太陽エネルギー利用機器の補助金は5万円では低すぎる、増額すべきと要求しました。

また、廃プラを燃やす「サーマルリサイクル」はやめ、拡大生産

「区障害福祉計画」改定について

「障害者自立支援法」

について、1割負担は障害者の生活を圧迫している、撤廃を国に求めよと区長を追及。

区長はこれを冷たく拒否しました。

また、「改定計画」を障害者の要望にこたえられるよう求め、相談手続きが1か所できる総合窓口の設置、精神障害者の在宅移行のための就労支援の拡大・強化、移動支援事業の要件撤廃を求めました。

者責任やデポジット、再利用の拡大に力を入れよ、新庁舎建設など大型開発はCO2削減に逆行すると指摘。

これに対し区長は、「緑視率」で緑を感じるようにする、と後退した答弁でした。

太陽エネルギー機器の補助金は利用状況により増額を考えると多少前向きな答弁もありましたが、サーマルリサイクル、大型開発の断念は拒否しました。

さらに、障害を持つ児童・生徒の放課後対策を取り上げ「タイムケア」事業の早期実現、グループホームやケアホームの増設を要求。区長は、総合窓口の設置は、庁舎の狭さを理由に先送り。「タイムケア」事業は需要・実態調査すると答え、移動支援の要件は緩和を検討、グループホームの建設は区有地の活用も視野に入れると答弁しました。

主な条例・請願・陳情の審査について

後期高齢者医療制度は

中止・撤回を

し付けるものです。

4月から始まった後期高齢者医療制度は、75歳以上の高齢者だけ別の保険制度に取り出し、保険料負担を増やし、差別医療も導入するものです。区が行った住民説明会でも「この制度は『年寄りには早く死ぬ』ということだ」と怒りの声があふきました。

減策を実施するものの、一人当たりの年平均保険料は8万9300円で、年収100万円の人は均等割額が1万1300円余にのぼり、高齢者に重い負担を押し付けるのです。

「どんどん橋」廃止は代替案を示せ 区民の陳情は採択

昨年末、区は突然「どんどん橋」（堀之内人道橋）撤去の住民説明会を開催。日本共産党から、小林ひろみ、森とおる議員が参加。参加した住民からは「橋が無くなると困る」など反対意見が続出しました。

これは、鉄道をはさんだ両地域一体となった住民運動です。陳情が審査された都市整備委員会で、森議員は「長年、地域に密着し愛され続けている橋。いつも住民の手により清掃がなされ大切にされている。撤去だけの計画に住民の理解が得られないことは当然」と、採択を主張。

自民区議8名が紹介した。今回のやり方は議員になって「区議会そのルールを破るもの」の議場に国旗掲揚を求める「請願が提出され、議場は様々な意見を交わす場であり、中立公正が求められている。『日の丸』は侵略戦争の象徴の歴史もあり、これまで、豊島区議会では議場のあり方を含め議会運営については、正副幹事長会で協議して決められてきたと反対しました。

国民健康保険料

大幅値上げ反対

今定例会には、08年度後期高齢者医療事業会計予算及び関連する条例が提出され、審議の中で渡辺くみ子議員は次の点で反対しました。

され、保険料に跳ね返ったためです。



08年度の国民健康保険料は均等割りが増え、賦課限度額も59万円になり6万円もあがりました。また住民税の税制改悪の激変緩和措置も廃止され、ほとんどの区民が値上げになります。特に収入200万円未満の4人世帯では11・4%もの値上げ。これは後期高齢者支援金と特定健診・特定保健指導の上乗せが総医療費に加算

豊島区は4月から図書館を区長部局に移行します。区民から「図書館の区長部局、文化商工部移管中止を求める陳情」が提出され、総務委員会で審査。小林ひろみ議員は、図書館は法で教育委員会の所管となっている、図書館は中立公正であるべきで区長が「文化で

図書館の区長部局への移管は

やめよ

街を活性化するため使うべきでない、と移管に反対、陳情の採択を主張。自民、公明、民主・区民は、「学校図書館との連携に不安がある」といつつ、継続審査にしました。



意見書について

自民、公明は道路特定財源と暫定税率の存続を求める意見書を提案。これに対し、日本共産党は、社会保障や環境、必要な道路にも使えるよう道路特定財源の一般財源化を求める意見書を提案しました。民主・区民もほぼ同様な独自の意見書を提案しましたが、どの意見書も過半数に至らず否決となりました。

また、日本共産党は「介護保険制度の実態に即した改善・見直しを求める意見書」を提案しました。今定例会の同党の条例提案に関して、自民、公明、民主・区民は意見書を挙げてもいいと言っていました。本会議では否決。区民の切実な要求に背を向けました。

議場に国旗掲揚を求める請願

自・公が採択強行



豊島区の妊婦健診の公費助成が、08年度より14回に拡充されることになりました。

「区は当初5回に拡充としていたが、さらに拡充され、陳情者の願いが反映された。採択を」と主張。ところが自、公、民主・区民は「現金給付は反対」「陳情より良い内容を実施するので取り下げを」と言い、継続審査にしました。

一般質問など機会ある毎に妊婦健診の拡充を求めてきました。

日本共産党区議団は、散歩などの付添介助、の介護保険外ヘルパー派遣を区独自の財源で行う条例案を議員提案。区民厚生委員会(河

野委員長)に、かきうち議員、小林議員、儀

厚生委員として審査。自民、公明、民主・区民は「国に意見書をだしたい」「区民から相談される」など必要性を認めつつ、「渋谷区ほど財政がよくない」「やる必要がない」などとして否決しました。

妊婦健診の無料化(14回助成)が実現しました

●意見が分かれた議案等

主な会派	○は可決に賛成 ×は可決に反対				結果
	日本共産党	自民党	民主・区民	公明党	
主な議案					
豊島区国民健康保険条例(一部改正)	×	○	○	○	可決
豊島区後期高齢者医療に関する条例	×	○	○	○	可決
平成20年度一般会計予算、国民健康保険事業会計・老人保健医療会計・後期高齢者医療事業会計・介護保険事業会計の各予算	×	○	○	○	可決
豊島区介護保険外訪問介護サービス事業に関する条例(日本共産党提案)	○	×	×	×	否決
道路特定財源の一般財源化を求める意見書(日本共産党提案)	○	×	×	×	否決
道路特定財源の一般財源化及び道路関係諸税の暫定税率廃止を求める意見書(民主・区民提案)	○	×	○	×	否決
道路特定財源の存続を求める意見書(自民党、公明党提案)	×	○	×	○	否決
介護保険制度の実態に即した改善・見直しを求める意見書(日本共産党提案)	○	×	×	×	否決

請願・陳情への態度		○は採択、△は継続審査、×は不採択を主張			
児童館の存続と子どもの居場所の充実を求める陳情	○	×	×	×	不採択
豊島区図書館の区長部局、文化商工部移管中止を求める陳情	○	△	△	△	継続審査
旧中央図書館の売却に関する陳情	○	△	△	△	継続審査
妊婦健康診査費用助成の充実を求める陳情	○	△	△	△	継続審査
「リサイクルのとしま」として容り法の完全実施を望む陳情他二件	○	△	△	△	継続審査
区議会の議場に国旗の掲揚を求める請願	×	○	×	○	採択

河野 たえ子



西池袋五―二六―二八
(三九五七)二六〇〇
党区議団長
区民厚生委員会委員
長

かきうち 信行



南長崎三―八一―一九
(三九五〇)三六七五
党区議団幹事長
子ども文教委員会委員

渡辺 くみ子



高田二―八一―九一
三〇八
(三九七二)一九五〇
区民厚生委員会委員

森 とおる



西巣鴨一―三一―二〇
一―〇二―
(三九四〇)六九六〇
党区議団副団長
都市整備委員会委員

小林 ひろみ



高松二―五二―一〇
(三九五五)八二四四
党区議団副幹事長
総務委員会委員

ぎぶ さとる



巣鴨五―三八―一
(三九一八)九四五八
総務委員会委員

必要な介護が受けられるように

日本共産党が条例提案



4月よりホームページを開設しました。ぜひご覧ください。

<http://www.jcp-toshima.jp>

ご意見、ご要望をお寄せください 日本共産党豊島区議団控室
電話(3981)1429 ファックス(3590)4650